

道徳科学習指導案

指導者

T 1

横山 直也

T 2

重森 恵美子

1 日 時 令和5年9月19日(火) 5校時

2 学 年 第3学年(12名)

3 主題名 「友だちの気持ちになって」 [B 友情, 信頼]

4 ねらい

友達のことを大切にできないときの後ろめたさについて深く考えることを通して、自分本位ではなく相手の気持ちを考え、友達を大切にしようとする心情を育てる。

5 教材名 「たつきゅうは四人まで」
('小学どうとく 生きる力' 日本文教出版)

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第3学年及び第4学年の内容項目[B 友情, 信頼]、「(9)友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」に基づくものである。これは、主に、第1学年及び第2学年の「(9)友達と仲よくし、助け合うこと。」からつながり、第5学年及び第6学年の「(10)友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」とつながっていくものである。

中学年になると、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動がこれまで以上に盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。そのため、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。友達のことを理解したり、よりよい関係の在り方を考えたり、友達の大切さを実感したりすることができるようにと考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、中学年の児童に起こりやすい友達間の問題を取り上げており、友達の存在の大切さを改めて感じ、友達とよりよい関係を築いていくための心構えやとるべき行動について自分事として捉えやすい教材である。主人公のしゅんは、自分の都合で友達を傷つけてしまい、その後、後悔してしまう。とおるを仲間に入れなかったしゅんの思いや、次の日どきどきしながらとおるを待つしゅんの思いなどを話し合うことを通して、友達への一言の重みや、友達とのよりよい関係を築いていくためには、友達の立場になって考えることが必要であることに気付かせることができる教材である。

指導に当たっては、児童が日常の生活を振り返りながら主体的に考え、道徳的価値についての考えを深められるようにしたい。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入では、日常の友達関係に関するアンケートから課題を設定することで、課題を自分事として捉えることができるようにする。
- ② 展開前段では、しゅんの行動についての問題点だけでなく、弱さにも共感させることで、友達関係における難しさについて自分自身を振り返りながら考えることができるようにする。
- ③ 中心発問では、とおるの心を深く傷つけてしまったことが気になり、楽しみにしていた卓球なのに楽しめなかった理由は何なのかを問うことで、相手の気持ちを考えることの大切さを考えさせる。また、一度傷つけてしまうとすぐに修復できないことがあることにも気付かせる。
- ④ 展開後段では、教師から「友達のことを考えた行動」を具体的に紹介することで、自分たちの生活の中での行動のよさに気付くことができるようにする。また、振り返りを書く際にその事例を手掛かりにして、自分の生活と結び付けて書くことができるようにする。

7 準備物 ・挿絵

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点●評価
			T 1	T 2	
導入 (3分)	1 事前アンケートの結果を示して、課題意識をもつ。	○友達と遊んでいて困ったことはありますか。それは、どんなときですか。 ・友達に無視されていやだった。 ・仲間に入れてもらえなかった。 ・けんかをした。	発問	板書	○アンケートにおける「友達と遊んでいてこまったこと」の回答を示すことで課題につなげる。
		友だちを大切にするためには、どんなことに気をつければよいだろう。			
展開 (37分)	2 教材「たつきゅうは四人まで」を読んで考え、話し合う。	○なぜしゅんはとおるを断ったのでしょうか。 ・四人で卓球をしたかったから。 ・五人だと一人余ってしまうから。 ・たくさん遊べなくなってしまう。	発問	板書	○しゅんの気持ちを考えることで、問題点について気付くとともに自分の都合のみで考えてしまう弱さに共感させる。

	○授業中ときどきとおるのこ とを見るほど、しゅんは何が そんなに気になったのでし ょうか。 ・とおるに悪いことをしちやっ たかなと思っている。 ・一緒に遊べばよかったな。 ・昨日手伝ってくれたのになん で断ったんだろう。	発問	板書	○とおるのことを 考える場面を共 有することで、し ゅんに後ろめい 気持ちがあるこ とに気付かせる。 ○とおるの気持ち にも触れる。
	【中心発問】 ○四人で卓球をしたしゅん があまり楽しめなかった のはなぜだろうか。 ・とおるを傷つけてしまったか ら。 ・すぐに仲間に入れてあげれば よかったと思ったから。 ・ひどい言い方をしまい後悔 しているから。 ・あやまっても傷つけたことに は変わらない。 ・仲間外れにしてしまった自分 が恥ずかしい。 ・ゆるしてもらえないから、も やもやしている。	発問 机間指導	板書 机間指導	○自分の考えをノ ートに書いて、交 流できるように する。 ○友達との関係が うまくいかなか ったことで、本 来、楽しいはずの 卓球が楽しめな かったことに気 付かせ、友達との より良い関係を 築くことの大切 さを捉えること ができるように する。 ○「一度あやまって いるからもう気 にしくてもいい のではないか」 とゆさぶること で、自分の言葉が 相手を傷つける だけでなく、自分 にも後悔の気持 ちが残ることに 気付くようにす る。
	【考えを深める発問】 ○しゅんたちは4人で謝る ことにしましたが、なぜも う一度あやまったのでし ょう。	発問	板書	○4人で謝ること にした場面につ いて考えること で、しゅんたち4

	3 自分の生活を振り返る。	・許してもらえず、もやもやするから。 ・許してもらえなくても、自分達の気持ちを伝えたかったから。 ・お互いにもやもやしたままっだから。 ○友達を大切にするためには、どんなことに気をつければよいでしょうか。 ・友達の気持ちを考える。 ・いやなことはしない。 ○先生の話をお願いします。	発問	板書	人の行動のよさを捉え、その後の友達関係についても考えることができるようにする。 【キーワード】 ・相手の気持ちを考える。 ・優しくする。 ○「友達のことを考えた行動」を紹介することで、友達関係に不安を感じている児童に安心感を与え、具体的なよさに気付くようにする。
終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○今日の学習を振り返って、「友達となかよくするために大切なこと」について自分の考えを書きましょう。	発問 机間指導	机間指導	○無理に発表しなくてもよいことを伝えることで、じっくり自分の気持ちに向き合うことができるようにする。 ●自分本位ではなく相手の気持ちを考え、友達のことを大切にしようと考えている。

9 板書

友だちを大切にするためにどんなことに気をつけよう。

たつきやうは四人まで

とおるをこわったとき

四人でするときめている人数がふえろと時間に入る。とおるはなかまがよい。とおるの方が上手。おもしくない。

じめぎやう中、とおるのことが気になる

まよいすすた。悪いことを言た。こわっていつか、入れてあげればよかった。

あやまつたけど...

今さら。もういい。なかまがよい。

もやもや 何とも言えない気持ち

四人でたつきやうをしたしんが、あまり楽しめなかったのはなぜだろう。

とおるが気になる。とおるをこわっているかな。あやまたのにゆるしてもらえていない。もやもや。すつきりしない。入れてあげてあげばよかった。後かい

四人であやまることにしたしんが

悪いことを言た。後かい。ちんあやまつた。すつきりしない。自分か言たことが本当に悪かったと思った。

⑨ 友だちを大切にするには、

- いけないうきにはあやまる。
- ゆるしてもらえろまで あやまる。
- なかまに入れて。
- かなしいことを言わないう。

むしをされていやだった。なかまに入れてもらえなかった。けんかをした。

10 成果と課題

- とおるのことが気になっているのはなぜか、楽しみな卓球をしても楽しくないのはなぜかを考えることで、友達をひどく傷つけてしまったことに気づき、友達を大切にするために気を付けることを考えることができた。
- 心情曲線は、気持ちの揺れを考えさせるために有効であった。
- 心情曲線は、児童と話をしながら描いていくと良い。

11 今後に向けて

- ・意見が活発に出るようになっているので、役割演技や動作化を取り入れ、考えを深めていく。